

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学  
「就業力を育てる3ステップシステム」  
プロジェクト  
<http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

## 働く力測定ツール開発の中間報告

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）



### 略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学

法政大学職員

11年~ 法政大学教員

### 形になってきました

昨年度から取り組んできた働く力測定ツール開発がやっと形になってきました。大学で実施可能なアセスメントとして、所要時間1日以内、費用1人あたり1万円以内を目安に開発を進めてきたものです。

ペーパーテストとビジネスゲームを組合せたものですが、前者のパイロットテストを無事に終えて全体像が見えてきたという段階です。今回はその概要をご報告させていただきます。

### スムーズ過ぎて拍子抜けでした

多摩・市ヶ谷の両キャンパスで合計31名の学生に協力願い、パイロットテストを実施しました。設問数は77、選択問題だけでなく記述問題も13あります。最初の気掛かりは運営面でした。実施時間を80分に設定しましたがそれで足りるのか？設問への回答内容により次の質問へ誘導される部分で間違えないか？ヒアリングテストでまごつかないか？などなど心配しました。結果は平均所要時間が57分、質問も出ず拍子抜けするほどでした。

### 自分を見つめ直させる機会になりました

ここで参加学生の声をご紹介させていただきます。「今までのアセスメントと違って、自分の経験を振り返る必要があった」「自分と向き合わざるを得なかったので疲れた」などと自分を見つめ直す機会となり、一方では「おもしろかった」との感想も寄せられました。ただ単に、問いに答えるだけでなく、その作業の中から自分を問う必要性を感じさせる仕組みとなっています。

### 「相手目線」を再認識しました

回答用紙の余白に、学生からの率直な意見や感想を記入してもらいました。すると、何番の選択問題は自分に該当する選択肢がなかったので、「その他」という選択が欲しいとか、問題作成側が想定しなかった状況がいくつか記入されました。

そうです、大人が決め付けをしてしまって相手目線への気配りが十分でなかった結果です。設問の細かい部分を修正して、ほぼ完成形に近づけることができました。あとはフィードバックシートの体裁やビジネスゲーム結果の反映を残した段階まで持ってきました。

次のステップとしては、ビジネスゲームのパイロットテストを実施します。こちらも運営から採点・評価を検証する予定です。紙ベースとは違って行動を見て評価する必要があります。こちらも標準化を念頭に仕上げていくことが重要と認識しています。この次は完成報告をお届けすべく頑張ります。



## 8勝7敗のすすめ

教授 藤村 博之（ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー）

今年の九州場所は、白鵬の優勝で幕を閉じました。幕内の力士たちは、一場所あたり15回の取組に勝負をかけます。8勝7敗で勝ち越せば番付が上がりますが、一つでも負け越せば地位を守ることができません。みんな15戦全勝をめざして取り組みますが、勝ったり負けたりして、悲喜こもごもの人間ドラマが繰り返されます。

最近の企業経営を見ていると、負けることを恐れるあまり、15回の対戦機会があっても5回くらいしか勝負していないように感じます。確かに負けないので5勝0敗ですが、残りの10回は「ヤ」です。ご存じですね。相撲の星取り表で、休んだときにはヤという字が記されます。5勝では負け越しです。最近の日本企業に元気がないのは、このあたりに原因があると思います。

学生たちも、失敗したくないのか「ヤ」が並ぶような日常生活を送っている人が増えているようです。負けるのは確かにつらいですが、敗戦から学べることはたくさんあります。人生は8勝7敗でいいのです。挑戦の機会があればとりあえず試してみる事が大事だと思います。

略歴 84年名古屋大学大学院卒。  
京都大学博士(経済学)。84～89年  
京都大学経済研究所助手、90～97  
年滋賀大学経済学部助教授・教授。  
97年～03年法政大学経営学部教  
授、04年～IM研究科教授。



## 怯まずに意見を発信してみよう

特任教員 白井 章詞（しらい しょうじ）

「就業応用力養成Ⅱ」では、前期に引き続き新聞社系のメディアと連携し、学生が記者として活動しています。前期がチームで記事を作成したのに対し、後期は一人(選択制)で仕事に取り組んでいる学生もいます。そのうちの一人が韓国の若者論を題材に記事を書いています。その発端は、私が行なっている韓国の大学調査へ同行したことにあります。有名大企業が好業績を挙げている一方で、IMF通貨危機以降、韓国の若者の職業社会への移行は本当に厳しくなっています。そんな実情を、現地の大学関係者や学生たちと直接交流し、意見交換する中で、日本の同世代の若者に「伝えたい」と思ったのでしょう。社会が抱えるリアルな問題に対して、自ら情報を集め、考え、怯まずに意見を発信して欲しいと思っています。

略歴 法政大学大学院経営学研究科  
キャリアデザイン学専攻(修士)卒業  
後、法政大学大学院政策創造研究科  
博士後期課程に進学。  
2011年3月、同博士課程中退。



## 産学連携ビデオ制作上の苦労点

特任教員 鈴木 美伸（すずき よしのぶ）

本年度も教材ビデオの制作が始まり、ビジネスケースをご提供頂く企業とのシナリオ作りに入りました。実は、ビデオ制作において最も苦労するのがここなのです。社会で求められる就業力については既にいろいろな視点で分析されており、また企業側が求める人材の資質というのも多くの採用担当者から語られています。ビデオ制作では、その伝えたい就業力が、どんな企業で、どんな現場で、どんな人物が体現しているのかを探します。

つまり、分析とは逆のパターンを辿っていくわけです。魚の解剖が分析で就業力が発見された骨格だとすれば、ビデオ制作は魚の骨格に肉付けをして、泳いでいる姿を表現していくような作業です。ご協力頂いている企業人事の方々、想像力を発揮しながら生き生きとしたシーンを模索しております。

略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事  
を経て人事コンサルタントとして独立。  
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの  
大学でキャリア論の講師を務める。

### ◆ 就業力育成セミナー

昨年に引き続き、春から新入社員になる4年生を対象に「就業力育成セミナー」が行われました。仕事の意義や目的・働く時のマナーやルール、法律・遭遇しやすいトラブルの対処法などを学ぶ1日のプログラムです。今回より新事業の連携大学からの参加者をお迎えしました。グループ討議やクイズを交えた講義が好評でしたが、社会保険労務士の講師による興味深い経験談や、質問しやすい雰囲気がとても良かったとの声も聞かれ、楽しく学んでいたようです。

### ◆ 編集後記 :

去る10月20日、来春の第89回箱根駅伝出場をかけた予選会がありました。本学は総合第8位の成績で見事(というか何とか)箱根駅伝の出場権を獲得しました。昨年、一昨年とも僅差で出場を逃していたので、本当に良かったです。

今年の夏に箱根駅伝ミュージアムに立ち寄る機会がありましたが、法政のオレンジののぼり旗が見当たらず、随分悲しい思いをしました。産業界ニーズGPではいろいろお世話になっている青山学院さんですが、仕事は仕事、箱根は箱根です。覚悟していただき! ? ということで、駅伝を始め、ラグビー、アメフトとこれから冬のスポーツシーズン本番です。彼らの活躍を応援しましょう。

◀ 事務局: 平山 ▶

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム